

## 診療科(講座)紹介

- 1) 県民に対する救急医療サービスの充実および向上を目的に、福島県立医科大学附属病院・高次救急センターの運営・整備強化を担う診療科として新設され、平成5年10月1日から診療を開始し、平成20年1月、救命救急センターを開設。同時にドクターヘリの運行を開始。
- 2) スタッフは部長、副部長の他、講師1名、助教5名。後期研修医1名で構成。
- 3) 取り組み課題として
  - ①救命救急センターの診療の質の向上
  - ②救急搬送システムの確立
  - ③天災・人災に対する災害医療の整備
  - ④効率的なドクターヘリ運用
  - ⑤医療従事者における救急医療の標準化

## 指導医(スタッフ)紹介



部長  
(附属病院教授)  
**田勢長一郎**

昭和44年 福島県立会津高等学校卒業  
昭和51年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 救急医学  
2) 集中治療学  
研究分野  
1) 救急医療の質の向上  
2) 救急搬送システム

### 学会活動

- 1) 日本救急医学会
- 2) 日本臨床救急医学会
- 3) 日本集中治療学会
- 4) 日本中毒学会
- 5) 日本呼吸療法医学会
- 6) 日本蘇生学会
- 7) 日本外傷学会
- 8) 日本麻酔科学会



副部長(講師)  
**池上 之浩**

昭和55年 愛知県立小坂井高等学校卒業  
平成2年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 救急医学  
2) 集中治療学  
3) 麻酔科学  
研究分野  
1) 外傷学  
2) 中毒学  
3) 呼吸管理



助教 **長谷川有史**

昭和61年 新潟県立新潟高等学校卒業  
平成5年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 外科学  
2) 救急医学  
研究分野  
1) 大腸がんの発癌関与する遺伝子群  
2) ヒト脳のプロテオミクス解析

講師 **島田 二郎**

昭和56年 茨城県立古河第三高等学校卒業  
昭和62年 福島県立医科大学卒業  
主な研修病院  
福島県立医科大学附属病院、会津中央病院  
臨床専門分野  
1) 麻酔  
2) 集中治療医学  
3) 救急医学  
4) 医学教育  
研究分野  
1) 重症患者と消化管  
2) Mgと痛み



助教 **塚田 泰彦**

昭和60年 栃木県立栃木高校卒業  
平成8年 福島県立医科大学卒業  
臨床専門分野  
1) 救急医学  
2) 集中治療学  
3) 麻酔科学  
研究分野  
1) 災害医療

以上、専任5名の他、兼務の助教3名。

第一内科(循環器・血液) 各1名  
第一外科  
整形外科 各1名



救命救急センター

## 後期研修(専門医養成コース)プログラム

	修得すべき手技や手術経験目標数など
1年次 (卒後3年)	①救急疾患に関する初期治療の知識 ②急性期病態の把握 ③救急疾患の初期治療の実際 ④心血管緊急処置 (BLS/ACLS) ⑤心エコー・腹部エコーの検査手技 ⑥病院前外傷の初療 (JPTEC/JATEC)
2年次	①急性期疾患の鑑別診断の知識 ②救急疾患の診断と治療の実際 ③人工呼吸器による呼吸管理、腎不全時の血液浄化法の実際 ④外傷初期初療 (JATEC) に沿った治療ができる ⑤心血管緊急処置 (ACLS) に沿った治療ができる
3年次	サブスペシャリストとしての他科研修
4年次	①救急専門医としての総合的な知識の習得 ②メディカルコントロールの方法の習得 ③サブスペシャリストとしての知識・技術の実践 ④若手医師への指導 ⑤ACLS、JATECのインストラクターの資格取得

## 大学院・留学について

適宜検討

## 専門医受験資格のために必要とされる技能・手技目標

日本救急医学会で定める受験資格条件は次のとおり

1. 日本国の医師免許を有すること。
2. 申請時において、継続して5年以上本学会の会員であること。
3. 5年以上の臨床経験を有すること。
4. 専門医指定施設、またはこれに準じる救急医療施設において、救急部門の専従医として3年以上の臨床修練を行った者であること。または、それと同等の学識、技術を習得した者であること。

## 後期研修協力病院

	関連病院名	所在地	指導医名	職名
1	藤田総合病院	国見町	寺島 信也	外科
2	南東北病院	郡山市	寺西 寧	外科
3	太田西ノ内病院	郡山市	篠原 一彰	救命救急センター

## 指導医からのメッセージ

- ①救命救急センターを受診する年間約16,500人の患者さんに対応し、多岐にわたる急性期疾患について学べる。
- ②メディカルコントロールで行っている、検証票チェックや症例検討会の企画運営することにより、メディカルコントロールについて精通できる。
- ③BLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの指導者としての資格を習得し、実際の指導を通して知識や技術を確かなものにできる。
- ④救急医学会の救急科専門医の認定に必要な項目を研修でき、3～4年終了時には救急科専門医を取得する。
- ⑤将来的に救急を専門とする場合にもサブスペシャリティを考慮し、他科の重点的な研修をする。1年半ないし2年間は積極的に他科研修（放射線科：画像診断、外科系、内科系）を推奨する。



外傷初期診療講習会



ドクターヘリ (H20.1から運航)